

文部科学大臣賞の受賞にあたって

荒木春登

この度は文部科学大臣賞という栄誉ある賞を受賞し、大変光栄に思います。スペイン語に初めて触れてから約三年が経ち、日々スペイン語の勉強に励む中でこの賞を頂くことができました。

私がスペイン語を学習するようになったきっかけは、高校生の時の世界史の授業でスペインの歴史の中にある多様性を知り、それが色濃く表れているスペイン語という言語自体にも興味を持ったことにあります。最初のうちは日本語にも英語にもない複雑な動詞の活用、そして名詞の性別といった内容に苦労しましたが、粘り強く単語帳を使って単語のインプットをしたり、ネイティブスピーカーが実際にスペイン語を使っている動画を視聴したりして読む、書く、話す、聞くといった四技能の能力をまんべんなく上達させることができました。そして現在大学でスペイン語を専攻している私は、自身が身に付けてきたスペイン語の運用能力を最大限活用しながら日々スペイン語圏の歴史、文化、政治について研究しています。自分の中ではかなりスペイン語を上達させることができたと思っけていても、世界中から来る留学生の話すスペイン語にはその地域特有の特色があり、いまだに翻弄されることも多いです。しかし私はそれらの新しい学びをチャンスととらえ、学習に生かしています。

そのような中で出会ったのがスペイン語検定です。私は自分のスペイン語の実力を客観的に測定できる機会が欲しいと考え、受験を決意しました。検定合格という目標を掲げると効果的に学習が進み、今回の文部科学大臣賞受賞に至りました。この結果に満足せず最低でも CEFR の C1 レベルまで自分のスペイン語運用能力を高めることを目標に、これからも努力していく所存です。

改めまして、この度はありがとうございました。